

平成 22 年 2 月 13 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム

平成 22 年 第 2 回講話

では、論語の素読を致しましょう。本日の論語の素読は、里人第四 12～16 です。

素読の基本は 3 つあります。まず、背筋を伸ばしましょう。上から糸でひっぱられているような感じです。次に、声を出す時に、我ながらこんなに良い声ができるかなと思うような、後で自分を褒められるような声を出して戴く。三番目は、目線です。前よりちょっと上を向くようにして下さい。

(素読)

論語から今を見る

では、解説を致します。今回読んでおりました、民主党ばかりが眼に浮かびます。テレビ・新聞・インターネットを開けると、小沢さんと鳩山さんの話ばかりです。皆さんも情報は十分ご承知だと思いますので、民主党を題材にして説明致します。

【十二】子曰く、^{しいわ}利に^り放りて^よ行^{おこな}えば、^{うらみおお}怨多し。

孔子が言うには、目先の利益で行動すれば、後で必ず色々な厄介事が起きる。

「怨多し」は、安岡正篤先生が、怨みごとよりは厄介事と解釈した方が分かりやすいと書いています。私もそう思います。

小沢さんで見てください。

土地を購入するのに札束をバックに詰めてあちこちに持って行ったとか、父親から貰ったなどと、説明するのに四苦八苦しています。マネーロンダリングは大変だと感じますが、自分自身の私欲で不動産を手に入れようと思ったから、後でこれだけの厄介事がついてきているのです。

鳩山さんも今朝の新聞では、弟と兄弟の縁を切りかねない話をしていました。与謝野さんが「あなたは平成の脱税王だ」と言っていました。最初から貰ったと言えよいいものを、知らない嘘をつくから後々厄介事が多くなって、鳩山内閣の支持率も急落し、不支持率

が支持率を上回りました。これは目先の利益が、後になって自分の身に厄介事として降り返って来た良い例だと思います。

ちなみに「利によりて行えば、怨多し」は、私が 28 歳で会社を創業して以来 30 年間社長業を致しましたが、その間、この言葉で会社の経営をしてきました。近代資本主義の父と言われた渋沢栄一は、この言葉を自分の規矩準繩として一生涯を貫く行動の指針としたと述べています。

「利によりて行えば、怨多し」は実に深い言葉ですので、色々なものに活用できます。目先の儲け話もそうですし、男女関係もそうです。諸々の厄介事や困り事も皆、この言葉で判断していくとさっと割り切れます。

【十三】子曰く、能く礼讓を以て国を為めんか、何か有らん。能く礼讓を以て国を為めずんば、礼を如何にせん。

礼讓とは謙遜、礼の根本です。お互いが譲り合う気持ちが一番肝心で、国を治める時には、譲り合いの気持ちが一番大事である。譲り合う気持ち、相手を尊敬する気持ちをもって国を治めようとしなければ、どうにもならないではないか。

これも今の民主党そのままです。民主党はこれからガラガラと落ちてゆくと思います。

同時にトヨタが気になりました。ブレーキ問題で最初にテレビで会見をした際に、「技術的に問題はない。技術と、乗っている人達の感覚に差があるだけだ」と、うちは悪くないと捉えられるようなことを言っていました。今、トヨタはナンバーワンですから、世界各国から狙われ始めているわけです。そのような状況であるのに、「うちは悪くない」という会見をしました。ですからトヨタは、これから見るも無残なほど落ちるだろうと思います。今の時代、トップの一挙手一投足によって、売上げがいったんに伸びたり落ちたりすることがある。今は瞬時に情報が広がりますから、ほんのちょっとしたきっかけ、言葉の行き違いであったり言葉のあやで、上ったり落ちたりします。

日本の国はこれからの 10 年間、乱氣流の中をジェットコースターのように落ちると思います。若干上に行ったりすることがあるけれども、基本的に落ちていく状況だと思います。礼讓（譲り合いの気持ち）が必須だと感じます。

【十四】子曰く、位無きことを患えず、立つ所以を患う。己を知ることを莫きを患えず、知らるべきことを為すを求む。

地位や官位が欲しい、どうして手に入らないのだろう・・・と悩んだりしないで、自分の実力が無いことを悩みなさい。悩む時間があつたら、実力を付けなさいということです。

自分が所属している組織の中で抜擢されて上に行ってどんどん力を発揮するだけの実力があつたら仮に思つていても、まだ私は年ではないからとか、周りの人をお先にどうぞとすべきである。自分を認めてくれる人がいないことを気にしないで、認められるような実績を作ればお客さんはどんどん増えるし、知らず識らず間に組織の中のポストも自然とついて来るものと解釈すればよいでしょう。どうぞ、人に認められるような努力をして下さい。

【十五】子曰く、参や吾が道は一以て之を貫けり。曾子曰く、唯と。子出づ。門人問いて曰く、何の謂ぞやと。曾子曰く、夫子の道は忠恕のみと。

「吾が道は一以て之を貫けり」という部分は特に強調したいところです。

孔子が自分のお弟子さんの参(曾子)のところに出かけて行って、「参や、私が学問をしていく上で、そして一生を貫く道理・人生の基準は一つしかない」という話をしたところ、曾子が「はい」と答えました。

孔子が満足して外に出て行ったあと、それを聞いていた参の門人が「どうしてはいと言つたのですか」と聞きました。

曾子が答えました。「孔先生の道は、忠恕(まごころと思ひやり)で一生を貫いておるのだ」

曾子は、聞いた人間が自分の弟子なので、忠恕と答えた方が分かりやすいだろうと思うから曾子は「忠恕」と答えたわけで、違う人間が聞いたならば、「仁」と答えたかもしれません。相手によって言葉が色々変わります。ただ、阿吽の呼吸で、先生は一生涯一つの判断基準をもって生きていと分かつたのです。

鳩山さんと小沢さんの場合では、「はい」という阿吽の呼吸で幹事長続投ということになりました。大分次元の違う話だと思ひますが、浮かんできました。

【十六】子曰く、君子は義に喩り、小人は利に喩る。

立派な人は正しい道理によって判断し行動するが、普通の人は利益が来るか来ないかで判断をする。

渋沢栄一は『論語講義』の中で、

「明治 39 年に、当時色々とあった鉄道を国有化し、その債権を売り出した。数年経てば鉄道の債権というものは急激に値上がりすることは当然分かっていた。単なる金儲けで、自分でも大量に買いあされば、財閥に負けないくらいの財産を作っていたであろう。しかし金儲けだけをしようと思っていないので、周りの人に勧めて買って戴いたところ、非常なる値上がりをして感謝をされた。私は立派な人になりたいと思って、金儲けだけで動いていない。鉄道の事業は日本の国にとって必要なものであるし、利益が生まれるものであるから皆さんにお勧めする。私は儲かると分かっているものに手は出さない。国家の為になると思ったなら、困難な道の方を選ぶのだ」というようなことを書いています。

渋沢栄一は、第一国立銀行という銀行を日本で最初に創り、その銀行をベースに、日本国内に必要なと思われる五百数十の基幹産業、その他大学・教育機関等を沢山創りました。それらはすべて、義によって行動していました。

前回解説が残っていましたので、お話致します。

【十】子曰く、^{しいわ}君子の^{くんし}天下に^{てんか}於けるや、^お適も無く、^{てき}莫も無し。^な義と^{ばく}与に^な比う。^ぎ^{とも}^{したが}

天下にあって人に対する時、このように行なおうと最初から決めてかかることはしない。このようにしないと決めてかかることもない。義に合するかどうかで判断する。

これも渋沢栄一の話です。渋沢栄一が朝起きて食事をする頃には、自宅に訪問者が詰め掛けていたそうです。必ずご本人は会うと決めていたようで、誰が尋ねてきても、お断りすることはなかったそうです。それが終わると会社に行き、先々で面会希望者が待っているのをそれをこなして夕方、又、戻ってくるという一日だったようです。

【十一】子曰く、^{しいわ}君子^{くんし}徳を^{とく}懐え、^{おも}小人^{しょうじん}土を^ど懐う。^{おも}君子^{くんし}刑を^{けい}懐え、^{おも}小人^{しょうじん}恵を^{けい}懐う。^{おも}

立派な人が道徳（最高の善）というものを考えれば、普通の人は一身上の安楽、自分自身の利益や安心するものを考える。

立派な人が法律を考えれば、普通の人には利益を考える。

「刑を懐う」で、江藤新平と西郷隆盛を思いました。自分で法律を作って、刑罰を作った人間が、自分の作った法律で裁かれて斬罪されたのが江藤新平です。

このように文章から歴史上の人物を思い出して考えたり、今の時代に合わせて読み解くようにすると、論語がどんどんおもしろくなります。その中で何か一つでも、文章によってイメージが浮かんで来れば素晴らしい。

論語を読んでいくにあたって段階があります。最初は気持ちよく読めること。これが入門編です。次の段階は、自分の好きな科白が見つかる。そうすると日頃、その言葉を口ずさむようになります。更に上の位になると、その文章を見てイメージが浮かんで来る。映像の中で登場する人物が生き生きと動き始める。そうなれば論語は自分自身のものとお考え下さい。

恒例の質問

では、恒例の質問を致します。

昨日一日、嘘をつかなかった方？

(・・・沢山手が挙がる)

嘘をつくとは何か棘が刺さります。嘘をついて、それを塗り重ねてゆくと、小沢面という事になりますので、どうぞお氣をつけて戴きたい。

昨日一日、良い日だったと思っておられる方？

(・・・沢山手が挙がる)

自分自身の為になにかをして、ああ良いことをしたなと思うのと、他人の為に何かよいことをするのは、どちらが気持ち良いでしょうか。今、手を挙げた方の中で、他人の為に何か良いことをして、良い日だったなと思う方はおられますか？・・・結構いらっしゃいますね。やはり他人の為に何かしてあげて気持ちが良い時は、ずっと眠れます。だんだん福相になってくると思います。

おんにここにこ 腹たつまいぞや そはか

基本哲学の「知足」についてお話しします。

中斎塾フォーラムの中で、自然と身につけて戴きたい考え方です。知足・・・ほどほど、

あまりがっつかないということです。

私は今、食事を一所懸命自制しています。腹七分を実践していますが、なかなか難しいですね。食べるもの、買うもの、お金・・・色々なものをひっくるめて、もうちょっと欲しいと思う気持ちを我慢する。ほどほどにしておこうという自制が身につけば、大成功だと思います。それが身についたなら、だんだんと理論的なものを調べたくなります。

なかなか上手くいかない場合は、「おんにここに 腹たつまいぞや そはか」というおまじないの言葉があります。ある禅僧がお婆さんに授けた言葉ですが、これを唱えるとよろしい。又、私が詩吟で通っている神社の入り口に「威張るな・欲張るな・妬むな・怒るな」という言葉が飾ってあります。この額を見ながら私はいつも反省しています。自分で氣をつけようというものが身近にあれば、だんだん良くなると思っています。

それらをすることによって、中斎塾フォーラムでは自然と先ほどお話しした<ほどほど>が身につきます。同時に、知識・見識・胆識でものを見る眼が養われます。ものを見る眼が養われると、どう行動すればよいか自然と見えてきます。見えなければ、考えようという気持ちになる。そして行動するようになる。

知識・見識・胆識

ものを見る眼を養うというのは、そのまま知識と捉えればよい。色々なものが今、知識として身の周りに入っています。

知識・見識・胆識を鳩山さんの場合で考えましょう。

鳩山さんは小沢離れをしなければならぬとマスコミでも言われていますし、本人もそう思っているでしょう。知識(色々な情報)は、鳩山さんのところに沢山集ってきている。小沢さんが何を考えているか、民主党の情勢はどうか、アメリカとどう対応すべきか、普天間問題はどうか処理すべきか・・・色々な情報が錯そうしながら入っています。それらが全部知識になっています。

そうすると、どうすべきかという見識が出てこなければいけないのですが、その表れの一つが、行政刷新大臣に新しい大臣を据えて小沢離れを明解にしました。こうしなければならぬと考えたものを、実行し始めたのだと感じました。小沢さんと離れなければならぬだろう、小沢さんを切ろう・・・というところまでが見識です。

胆識は、実行する所です。実行すると、当然返り血も浴びます。

このように知識・見識・胆識で見るとよろしい。皆さんも自分自身の立場で色々な物事を解決していく時に、この知識・見識・胆識は役に立ちます。

氣になった科白

今日皆さんにご紹介する本は、中斎塾フォーラム参与の荒井桂先生が書かれた『安岡教
学の淵源』という本です。安岡正篤先生がどういう所から学んだのか書いてあります。

先日読んだ『文芸春秋』に良いなと思った科白がありました。塩川正十郎さんが書かれ
た文章です。昭和 42 年に初当選した際、岸元首相から聞かされた言葉が今も忘れられな
いそうです。「評論家は・・・だと思えますと断定をしないが、政治家は・・・でありま
すと断定をする」という言葉だそうです。自分がこうすると決めた決意の元に発する言葉
は、断定になります。ですから評論家のような科白を言うてはいけないということです。
岸さんという方は色々と毀誉褒貶がありますが、やはりたいした人物だと思います。ちな
みに岸さんは、収監された時に渋沢栄一の論語講義を必死になって読んで、『論語と渋沢
翁と私』という本を書いています。

先日或る会合で、^{じょうこうあきら}上甲 晃さんの講演を聞きました。松下幸之助さんについて話をされ
ました。上甲さんは松下電器から松下政経塾に出向して塾頭になった方です。

上甲さんは政経塾から政治家を沢山育てたので、あの世に行っても松下幸之助さんに褒
めて貰えるだろうと思っていたそうですが、最近になって、自分が生み育てた国会議員が
あれでは駄目だと思い直し、褒めるどころか怒られると思って、もう一回やり直しをしな
ければいけないと思ったそうです。量より質の良い国会議員を作らなければいけないと思
い始めたそうです。

上甲さんの講演の中で私の耳に残ったものは、「不況の時に経営者は本物になる」とい
う言葉です。不況の時に、血反吐を吐きながら必死になって乗り越える知恵を自ら生み出
す。そうしなければ本物の経営者になるものかと思えます。「好況の時には本物の経営者
は生まれません。不況の時に本物の経営者が生まれる」と言っておられました。

これから 10 年間は、日本は乱気流で混沌の時代に入ります。自分の実力を発揮できる
実に良い時代だと思います。幸い私はまだ 60 代そこそこですから、氣力・体力・知力がま
だ十分旺盛な時に日本の大混乱の時期にぶつかるといのは、正直なところ、わくわくし
ています。これが 80 歳 90 歳になってからでは、なかなかわくわくは出来ません。

これからの 10 年間は大変な時代です。特に今は、デフレスパイラルと言われています。

2、3年前は、私はデフレとインフレが共存している時代だと言っていました。今は、デフレスパイラルとハイパーインフレのちょっと前の時代に入っていると思っています。デフレスパイラルとかがインフレが進んでいる時代。今、完全にインフレは始まっています。マスコミが取り上げていないだけで、現実にはデフレの色が片寄った部分に限られてきて、インフレが気がつかない間にどんどん勢力を増大していると感じています。夏から後半にかけて、きわどい話がどんどん増えてくると思います。来るなら来いと手ぐすね引いて待ち構えていると、力を発揮するおもしろい時代だと思います。

混沌する10年間、どう立ち向かうか・・・山田方谷に学ぶ

山田方谷の財政再建について、最後に少し触れておきたいと思います。カレントにも書きましたが、これからの10年間の中で、是非考える必要があると思っています。

長期予測・・・財政再建を考えると、その国がどういう国になろうとしているのか長期予測をする必要があります。江戸時代末期、備中松山藩の藩主である板倉勝静（かつきよ）は最後の老中と言われた人です。山田方谷は自分の藩のお殿様が老中として徳川幕府を支えているにもかかわらず、徳川幕府は滅びると断言しています。その上で長期予測をし、備中松山藩の将来を見通した再建の方策を考え実行しています。

出づるを制す・・・「入るを量りて出づるを制する」をしなければならぬと判断し、まず、出づるを制することに手を付けました。トップにいる藩主に一汁一菜をすすめ、それを公表しましたから、周りの人間も右に倣えをしなければならなくなりました。食べるものから着るもの、日常生活のありとあらゆるものまで倣約令を出して従わせました。

給与カット・・・倣約令の中で、必ず元に戻すという期限を明言した上で給料のカットを打ち出しました。自分も大幅に給与カットし、藩士の給料も削りました。

借金の棚上げ・・・大坂の商人の貸主たちに借金の棚上げを申し入れ、承認を取りました。金額によって10年とか50年と期間は長いものでしたが、必ず返すという約束をしました。

JALの再建計画もそうですが、今の日本の政治家・官界・財界のやり方は、まず借金の棒引きです。スタートから違います。

更に担保として入れたおいた米をすべて回収しました。それを藩中40箇所に設けた義倉所に置いて、飢饉の時に領民に配ると公表しました。担保にしていた米が、飢え死にをさせないための安心に変わったわけです。借金の棚上げの仕方が、今と一味も二味も違いますね。今の政府も財界も考えなければならぬところだと思います。

賄賂の禁止・・・役人が受け取っていた賄賂や、巡郷時の酒食のもてなしを全面的に禁止しました。今、考えれば当たり前のことですが、これは非常に抵抗を受けました。

国家破綻をしたロシアやアルゼンチン、トルコといった国を自分でずっと回って実感しましたが、賄賂や汚職が行き過ぎて国が滅びるといのは当たり前の流れだと思います。

藩札の回収と新札の発行・・・藩札の信用を取り戻す為に、紙屑同然の藩札も偽札も皆買い集めて、丸一日かけて焼き尽くすパフォーマンスをしました。新しく発行した新札が信用を博して、備中松山藩はどんどん経済が高調していきました。

先日の北朝鮮もそうですが、デノミの時に新札の発行をしたりしますが、それは自分の国の信用をおとしめるものだと思います。ロシアも極端なデノミをしました。自分の国のお金を信用して持っていた人は飢え死にをしました。

これから 10 年間の中で色々な混乱・混沌が日本の国に生まれます。是非、皆さん頭を磨いて、体力もつけて、これからの 10 年間を対処して戴ければよいと思います。普段出会わない現象ですから、雨を降ったら傘をさし、雪が積もれば雪下ろしをします。普段出来ないことを体験する実におもしろい、自分の隠れた力を見出す今後の 10 年間だろうと思います。新しい自分、今まで分からなかった自分、見つけられなかった自分、信頼できる自分というものを発見して戴きたいと思います。

本日の講話は以上です。有難うございました。